

## URL:

[http://www.sanhaku.com/index.php?option=com\\_content&view=article&id=53&Itemid=41](http://www.sanhaku.com/index.php?option=com_content&view=article&id=53&Itemid=41)

## 本サイトについて

本サイトは、大阪万博の跡地に建てられる予定だった「国立産業技術史博物館」を記録に残すべく、2009年5月に立ち上げたものです。「国立産業技術史博物館」とは、文字通り、産業立国ニッポンの技術の歴史を保存するため、大阪府などが誘致活動をしていた国立の博物館です。1970年代後半から計画され、30年以上にわたって貴重な資料が集められてきました。

ところが、2009年3月、予算難のために2万3000点以上の資料がすべて廃棄処分になってしまいました。

具体的な収蔵物は別項に譲りますが、一部を紹介すると以下ようになります。

### ●江戸時代の木製クレーン

江戸時代末期、鋳物作りで使われた木製クレーン。奈良の大仏を鋳造した子孫の家に残っていたもので、世界唯一とされる。長さ約6メートルで、人力で1トン近いものが動かせました。

### ●大砲工場の工作機械

大阪の砲兵工廠（大砲などの工場）で使われた工作機械。陸海軍が欧米から大量に買い付けた機械をモデルに、国産が作られていったのです。

### ●戦前のクギ製造機

杉や竹の弾力を利用した釘の製造器。針金を通してハンドルを回すと、大きな音がして完成する。

### ●関西電力の火力発電設備

約70万キロワットという国産初の巨大発電機。昭和初期に稼働を始め、関西の電力需要の3分の2をまかした関西電力尼崎第1、第2発電所の設備。

### ●クレヨン製造器

子供の頃お世話になったサクラクレパスの製造機械。3つのローラーが大理石で出来ていて、口ウを成型するとき温度を下げてくれる。

### ●英文活字製造器

毎日新聞社が使っていた英文活字の製造器。わざわざ鉛を溶かし込んで文字を作ったのです。

### ●宇治茶の製茶機械

従来、手もみで作っていたお茶の、初めて作られた機械揉み機。お茶をぐるぐるまわして蒸しながら荒揉みするのです。

これら貴重な遺産のうち、いくつかはよその博物館などに移管されましたが、ほとんどがスクラップになってしまいました。そこで、バーチャルながら、その記録を残そうと思ったわけです。

その後、経済情勢の悪化にともない、企業博物館などの閉鎖が相次ぎました。そこで、そうした閉鎖博物館の遺品も含め、ネット上に再現していくことにしました。

いうまでもなく博物館にはいろいろな種類がありますが、基本的には、産業や技術系のものを中心に再現していく予定です。

本サイトは「[探検コム](#)」という個人サイトから派生したもので、あくまでサブ的な位置づけです。しかし、探検コムのデータが膨大になりすぎ、ちょっと收拾がつかなくなってきたので、技術史に関する部分をまとめる意味合いもあって独立させました。

もちろん、独立させたぶん経費もかかるので、そのうち消滅してしまうかもしれません。その場合は、データ自体は探検コムの方に移管しますのでご安心を。

なお、僕自身は機械や技術の専門家ではないので、データに関する間違いがかなり多いのではないかと危惧しています。間違いや新情報などがありましたら、ぜひご教授ください。みんなの知恵で、充実したサイトに育てたいと思っています。

## ●江戸時代の木製クレーン

江戸時代末期、鋳物作りで使われた木製クレーン。奈良の大仏を鋳造した子孫の家に残っていたもので、世界唯一とされる。長さ約6メートルで、人力で1トン近いものが動かせました。

## 木製クレーン

### 杉田鋳造所の旧蔵資料

- ・江戸から戦後まで文書約2万点（うち江戸時代のもの60点）
- ・木や土や鉄でできている生産用具、製品約400点（うち江戸時代のもの100点）（1984年寄贈）



奥にいる人物と比べるとクレーンの大きさがわかる  
と思います



反対側から撮影

特筆すべきは、長さ約5.8メートル、幅約1.85メートルの木製天井走行型クレーンで、江戸時代末期のもの。

簡単に構造を説明すると、長方形の移動台が、輪軸（1本の巨大な木）や動滑車を備えた4点吊りの巻き上げ機を載せて工場の梁の上を移動したのです。固定式はけっこう残存してるようですが、前後左右に動くものはおそらく世界唯一（通称「ろくろ」）。

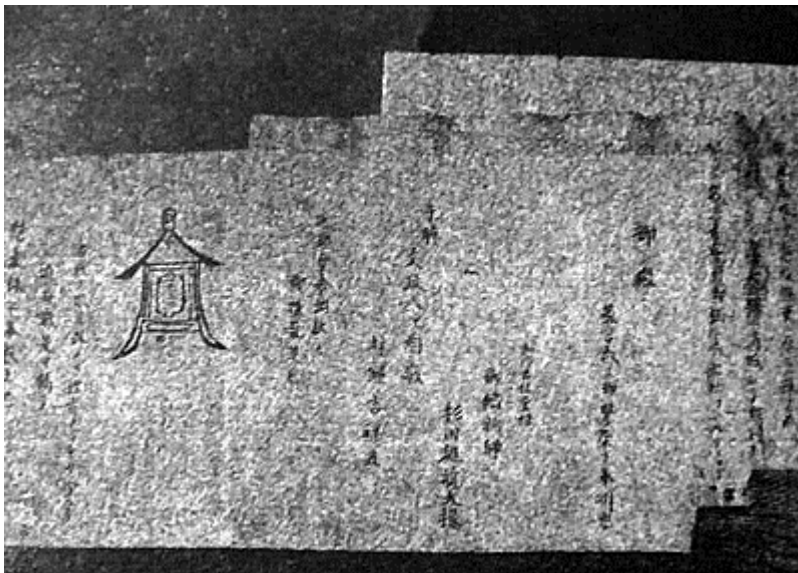
どうやって使われたのかというと、寺の鐘などを鋳造するとき、何トンもある鋳物を土の中から引き上げて前後左右に動かすわけです。今でこそ機械式のクレーンがありますが、当時は当然ながら人力です。人はクレーンの下にいてロープでひっぱってゴロゴロと動かします。移動には最低でも16人必要でした。

このクレーンは奈良県香芝町（当時）の町長さんの家（杉田家）にあったもの。杉田家は奈良の大仏を鋳造した棟梁の1人までさかのぼる歴史的な家系で、「五位堂鋳物師」3家のうちの1つとして有名。国内では、梵鐘を作れるのは杉田家しかなかったそうです。そのため、資料には梵鐘につける仏像レリーフの型やへうなども大量にありました。



天井から吊す道具

杉田家は近世以降、鍋、釜、風呂桶、スキなどの日用品や農具を中心に製造を行い、戦前はアジア各地に輸出されていました。資料の多くは香芝市等の博物館に移管されました。



こちらは 2 万点の文書資料の一部。エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館）に移管。

（写真は「産業技術史資料収蔵品一覧（補訂版）」より転載しました）